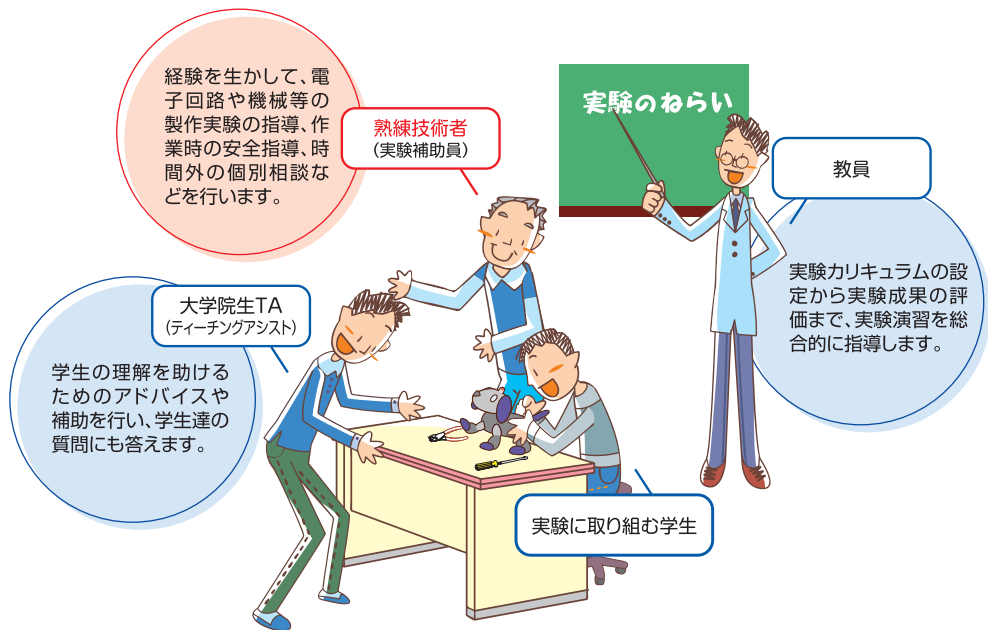


II 「モノづくり」の喜びと学ぶ意欲の向上を目指して

本学の主な任務は、高度科学技術社会を支える専門・中堅技術者の養成です。そのため、実体験不足や学力差の多様な問題をかかえた理工系学生に、充実した実験実習を通じて「モノづくり」の喜びや学ぶ意欲を喚起し、実践的な学習を支援します。

取組の顕著な特色は、50歳代で企業を希望退職する熟練技術者を実験補助員または嘱託職員として採用し、そのノウハウを教育現場に活用することにあります。熟練技術者は情熱があり、担当教員および大学院生TAとチームを組むことで、ユニークな役割を果たしています。

—実験演習での教員、熟練技術者、大学院生TAの主な役割—



この取組は、産業空洞化の深刻な現代社会で、日本企業の長年培ってきた人材資源の有効活用となるだけでなく、熟練技術の伝承・後継者育成という視点からも社会的に大変重要であり、「**オンキャンパス産学連携**」のユニークな形態と考えています。

これを特に重視した大幅カリキュラム改革を2000年度(平成12年度)から実施し、今年度は8年目になります。2006年度(平成18年度)からは高校新課程を経た入学生を迎えるために、さらに理工系基礎教育を重視したカリキュラムを作成し、改訂実施しています。

企業熟練技術者を配属する科目は、「工学基礎実験」「機械系実験」「物理学実験」「電気・電子系実験」であり、工学部と情報通信工学部1年次生のほぼ全クラスおよび2～3年次生の関係学科の専門実験科目にわたっています。

近年では、理工系入学者においても高校までの実験不足や工作等自主的経験の不足は大変深刻です。学力や目的意識の多様な新入生に対する導入教育では、10年以上前から多数の大学院生TAをすべての実験・演習科目に配属して教育の充実をはかってきましたが、特に平成12年度改革では、企業熟練技術者が持っている優れた技術と経験を活用し実験教育の活性化をはかりました。